

第2期中期行動計画最終年度を終えて

令和2年度から5か年計画で始まった第2期中期行動計画は令和6年度が最終年度でした。この計画は6つの事業を柱に据えていました。教育開発センターは事業Ⅰ「大学教育の『学び』の質保証・学修者本位の教育への転換」に大きく関わりました。事業Ⅰは9つの行動計画で構成されていましたが、中でも②「学習者本位の教育課程及び教育方法への転換」が第2期中期行動計画では最も多くの具体的施策（13施策）が示されており、そのうち11施策に教育開発センター各室が関与してきました（事業Ⅰ全体では51施策中21施策に関与）。令和2年度10月から現行の4室体制をとったので、各室で業務をうまく分担して具体的施策に取り組むことができました。4室体制が機能していることは毎年度の自己点検・評価時に基準3教育研究組織評価の点検・評価項目32として確認してきました。

令和7年度からは第3期中期行動計画（前期）の4か年計画がスタートします。柱となる6つの事業は第2期から引き継がれますが事業名に若干変更があり、教育開発センターは事業Ⅰ「学修者本位の大学教育」に関わることになります。第3期は具体的施策を全体的にスリム化していますが、教育開発センターは事業Ⅰの19施策のうち、8施策に関与することになります。

令和7年度は、令和9年度からの3つのポリシーの見直しとカリキュラム改定が予定されています。学修者本位の大学教育を一層進められるように、教育開発センターとしても取り組んでいきます。

筒井琢磨（教育開発センター長）

文部科学省

「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎レベル)」に採択

令和5年度に文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」で認定されたことに続き、令和6年度は「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）」で認定されました。令和6年度現在、全国では応用基礎レベルで243件認定されていますが、大学単位で定されたのは92件であり、私立大学に限ると38件です。理工系学部を持たない大学ならではの数理・データサイエンス・AI教育プログラムを充実したものにしていきます。

応用基礎レベルのカリキュラムは全学部共通科目5科目と各学部指定科目5～6科目（文学部5科目、教育学部6科目、現代日本社会学部6科目）から構成されます。これらの科目群は、各学部における「データサイエンス副専攻」の構成科目でもあります（副専攻はこれらの科目の単位取得以外に、GPAに関する認定要件があります）。

令和6年度に「データサイエンス副専攻」を申請した学生は27名です。国の「AI戦略2019」が求めている人材養成を本学でもしっかりとおこなっていきます。

筒井琢磨（教育企画室）

応用基礎レベルカリキュラム

文学部指定科目	教育学部指定科目	現日本社会学部指定科目
情報数学	代数学基礎	社会情報学
アルゴリズムとデータ構造演習	代数学序論	社会調査法
データ加工	確率・統計学Ⅰ	社会情報分析
データ収集	確率・統計学Ⅱ	社会統計学Ⅰ（基礎統計）
データサイエンス演習	コンピュータ概論	社会統計学Ⅱ（多変量解析）
	コンピュータ演習	質的調査論

全学部共通科目
データサイエンス入門
数学基礎
プログラミング・アルゴリズム基礎
データサイエンス・データエンジニアリング基礎
AI基礎

伊勢志摩定住自立圏共生学教育プログラム10周年シンポジウムの報告

去る令和6年9月8日「皇學館大学『地（知）の拠点』10周年シンポジウム」を開催いたしました。当日は会場90名、オンライン13名の合計で103名の方にご参加いただきました。

全体としては3部構成とし、午後のシンポジウムに先立ち午前にはCLL活動、伊勢志摩共生学演習そして伊勢志摩共生学実習の学生の発表を行いました。シンポジウムは齋藤平副学長の挨拶で幕を開け、基調報告「皇學館大学COC10年の取組」（筒井センター長）、「本学におけるCLL活動について」（池山地域課題学修支援室長）と続き、その後は分科会に分かれ議論を深めました。

分科会は「伊勢志摩のミライ」「地域と学生」「自治体と大学」の3テーマでそれぞれ学生がコーディネーターとなり進行し、パネリストには連携自治体職員の方や卒業生、そして現役の学生がつかまりました。



各分科会では教員がコメンテーターとなり、パネリストや会場から意見を引き出しました。

来場者アンケートでは、「よかった」「ややよかった」の合計は100%となり、また自由記載のコメントでは「担当教員と学生が真剣に取り組んでいることに感動した」「和気あいあいとした雰囲気よかった」などの好意的なコメントが寄せられました。

本シンポジウムの開催に関しましては学内外の多くの皆様に多大なるご助力をいただきました。この場をお借りいたしまして、御礼を申し上げます。また、次の10年間でさらに充実したものとできるよう取り組んでまいります。

池山 敦（地域課題学修支援室長）

「伊勢志摩共生学演習Ⅰ・Ⅱ」の報告 及び「伊勢志摩共生学実習A・B」の実施状況

令和5年度入学の学生が2年生となった今年度、新たに配置した演習授業である「伊勢志摩共生学演習Ⅰ・Ⅱ」がスタートしました。本演習は、カリキュラム上は講義室での講義である「伊勢志摩定住自立圏共生学」と現場での体験である「伊勢志摩共生学実習」の間をつなぐ役割を果たします。講義室での知識と実践の間に、自分で問を立て、それについて調べ、発表し、議論する、という位置付けとしており、そのため演習授業の形式を取っています。また、本授業は伊勢志摩定住自立圏共生学副専攻の認定のためには必修となっており、2クラス編成とし【a】を筒井教授、【b】を池山准教授が担当しました。

春学期をⅠ、秋学期をⅡと位置づけており、Ⅰでは伊勢志摩定住自立圏の3市5町のそれぞれの地域防災を、Ⅱでは同じく地域公共交通を取り上げそれぞれ一つの市町を担当して、調べ、発表し、議論しました。この演習の特徴としてはそれぞれの学期に実際に現地に行くフィールドワークを取り入れているところで、Ⅰでは伊勢市、玉城町、南伊勢町にⅡでは鳥羽市、志摩市に訪れました。

初年度ということもあり教員も探り探りの進行でしたが、連携を取りながら無事終わることができました。次年度は、今年度のノウハウを活かし、更に深く伊勢志摩について学ぶ内容としたいと思います。

こちらを受講した学生が、次年度「伊勢志摩共生学実習」を受講することになりますので、こちらでも新カリキュラムでの準備を進めています。こちらの実習では今年度をプレ開講期間とし、8市町全てにおいて実習のコースを設定しました。これまで実習の受け入れをお願いしていなかった地域との関係性の構築を含め、準備が整いましたので、次年度より本格的に8市町での実習の実施となります。

池山 敦（地域課題学修支援室長）



鳥羽市 菅島灯台にて

SDGs講演会の開催

令和5年度に設置し、令和6年度から申請が始まった「SDGsとビジネス」副専攻の認定要件として、SDGsとビジネス教育講演会を2回受講することを入れています。令和6年度の申請者数は10名でした。

令和6年度は春学期に基礎編、秋学期に実践編の講演会を実施する計画でした。

春学期は6月20日（木）に、みえ市民活動ボランティアセンターのセンター長新海洋子様に講師をお願いして、「SDGsが実現する社会」という演題でご講演いただきました。副専攻を申請した学生だけでなく、SDGsに関心がある学生も含めて、約15名の参加がありました。

秋学期は1月16日（木）に、株式会社ゲイトの代表取締役五月女圭一様に講師をお願いして、「ビジネスの前提がSDGsになりました。どうする？」という演題でご講演いただきました。この回も約15名の参加がありました。

筒井琢磨（教育企画室長）

文章検の実施

本学では今年度（令和6年度）より公益財団法人日本漢字能力検定協会の「文章読解・作成能力検定」（以下、文章検）の団体受検を開始しました。

初回は令和6年8月22日（木）V講時に実施し、準2級に14名、3級に2名が合格しました。3級に関しては100%の合格でした。2回目は令和7年2月5日（水）V講時に実施し、準2級に8名が合格しました。

団体受検は日時の選択肢に限られており、都合が合わなかったという学生がいたかもしれません。とはいえ、公開会場であれば年1回の受検機会しかなく、会場も地域が限定されているので、ぜひ本学で受検してもらいたいと思っています。

令和7年度からはより多くの学生に文章力の重要性を認識してもらい、文章検の受検へと繋げてもらえるよう学習支援室としてもサポートを強化していく予定です。

濱畑静香（学習支援室長）

ティーチング・ポートフォリオの実施報告

令和4年度より3ヶ年計画で取り組んできたティーチング・ポートフォリオ（TP）の作成と、それを使った授業改善のための学科FD活動が実施され、今年度において、TPに関する所期の目的が達成されました。初年度は役職者の先生方による先行的なTPの作成、2年目は全教員を対象として、TP作成のための講演会の開催と役職者の先生方をメンターとしたTP作成に関わる学科FD及び両センター合同FDの実施、そして、最終年度となった今年度は全教員によるTP作成とそれを使った授業改善のための学科及び両センター合同FD活動の実施が、この3年間の具体的な活動内容となりました。各学科等からの「FD活動報告書」には、学科FDが、他の先生の授業実践から学ぶことで、自らの授業を振り返る場となった等の報告もあり、TPを活用したFD活動が一定の効果を上げたのではないかと思います。

中村哲夫（FD・SD室長）

ルーブリックに関するFD活動

令和6年度は、ティーチング・ポートフォリオ導入と並行して、ルーブリックに関するFDも実施しました。第1回FD活動として、令和6年8月29日に「成績評価のためのルーブリック活用」のテーマでの加藤真紀先生（名古屋大学高等教育研究センター教授）による講演、第2回FD活動として、令和7年2月7日には、加藤純一先生による「受講生と共に活用するルーブリックを用いた授業実践」と題する授業実践報告をしていただきました。第1回では、ルーブリックの全般的な内容でご講演いただき、第2回では、ルーブリックを受講生と共に活用しながら授業を展開された先生担当の教科教育法（令和6年度秋学期）の授業実践を報告いただきました。ルーブリックに関しては、「評価しづらいものを測るための手法」として、授業改善、成績評価に活用できればと考えます。

中村哲夫（FD・SD室長）

各室からのお知らせ(令和6年度活動報告/令和7年度計画)

教育企画室

第2期中期行動計画に基づき、令和6年度に教育企画室が取り組んだ14事業の結果を記します。

①科目ナンバリングの積極的活用(一部学科での試行)。②SDGsとビジネス教育講演会開催。③令和7年度にPROG活用説明会(1年生、3年生)開催を企画。④アセスメント・ポリシーによる大学の3つのポリシー簡易検証(IR室に依頼)。⑤アセスメント・ポリシーによる大学院の3つのポリシー検証(IR室に依頼)。⑥令和7年度春学期履修指導時に大学院進学希望者向け履修モデル活用を両研究科に要請。⑦各学科の令和5年度自己点検・評価結果でのカリキュラム・ポリシー検証を確認。⑧学習端末活用アンケート調査を実施、学科で共有。⑨学生が自ら選択できないクラスの授業についてシラバスで到達目標等3項目を統一。⑩秋学期も副専攻の周知を教務担当に依頼。⑪セルフアセスメントの実施手順を作成、学科で共有。⑫「伊勢志摩共生学」学修成果評価アンケートとGPAの関連の分析結果をカリキュラム検討委員会(令和9年度カリキュラム)に報告。⑬数理・データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎レベル)申請、認定される。⑭令和7年度より数理・データサイエンス・AI教育プログラム修了証をオープンバッジ発行で行う。

(教育企画室長 筒井琢磨)

学習支援室

先のページでご報告したとおり、令和6年度において文章検の団体受検を開始しました。受検申し込み前には、共通科目「日本語表現」やその他の演習授業(ゼミ)などで教員から案内をし、また、学生ポータルサイト・掲示板・図書館などでも告知しましたが、文章検とはどのような検定なのか十分に伝わらなかったかもしれません。令和7年度も文章検の団体受検を実施する予定です。

これとは別に、学習支援室が一年を通して関わり続ける業務として、manabaの運営があります。毎年、年度始めにmanaba説明会を開催しています。令和6年度も新任教職員の方々には基本的な使い方などを説明させていただきました。その際、responの使い方についてもご紹介しています。出席確認だけでなく、クリッカーやアンケート機能などもご利用いただき、双方向のやり取りを授業内で積極的に行っていただければ幸いです。令和7年3月にはmanabaがいくつかの機能をバージョンアップしました。その中には、大人数の履修者がいる科目や欠席者に対して別課題を指示する際に活用できる機能もあります。詳細についてはまた別途ご案内する予定です。

令和7年度もさまざまな形で学習支援を行っていきます。

(学習支援室長 濱畑静香)

地域課題学修支援室

3月に入り暖かくなってきました。地域課題学修支援室では、今年度は主に大学COC事業の採択10周年と

いうことで、シンポジウムの開催、履修証明プログラムの刷新へ向けての意思決定、それからこれは池山個人ではありますがCOC事業を振り返る内容を大学紀要に投稿させていただきました。また、上でも書かせていただいた通り、新カリキュラムでの「演習Ⅰ・Ⅱ」及び「実習」の刷新の対応などにも取り組んでまいりました。

もちろん、レギュラーの業務でありますCLL活動の支援も継続して行っています。近年では「伊勢志摩定住自立圏共生学教育プログラム学修成果発表会」や「CLL活動説明会」などの運営の多くの部分を学生に委ねることも試みています。

次年度は11年目の再スタートということで、CLL活動についてもいくつかリニューアルを考えておりますし、また本格的に履修証明プログラムの刷新にも取り組んでまいります。どうか、読者の皆様からご意見ご要望などございましたら、地域課題学修支援室までお寄せください。皆様の意見も頂戴しながら、よりよい取組となるよう令和7年度も邁進してまいります。

(地域課題学修支援室長 池山 敦)

FD・SD室

令和6年度は、ティーチング・ポートフォリオ(TP)3年計画の最終年であり、また並行して、成績評価のためにルーブリックを活用するというテーマで、2回のFD活動を行いました。TPに関しては、今後に向けたTPの改定や活用の仕方等に関して、現在、FD・SD室で検討しています。その結果をお示しすることになりますが、先生方にもご議論いただき、授業改善のため、あるいは教育業績としてのTP活用の仕方等、ご意見をいただければと考えています。また、次年度に向けても、ルーブリックをテーマにFD活動を実施していきます。TP同様に、授業改善、教育力向上のために、FD活動を通してルーブリックの活用を提案できればと考えています。

一方、SD活動については、職員の質向上や働きやすい職場づくり、安全と健康の確保を目的に、コンプライアンスやハラスメント、メンタルヘルス、情報セキュリティなどの多様な研修を実施しました。日々の業務の中での自分を見つめ直す機会となり、一人ひとりが向上できる研修となりました。令和7年度も引き続き、教職員の皆様にご協力をお願いします。

(FD・SD室長 中村哲夫)

皇學館大学 教育開発センター

News Letter vol.05

発行日:令和7(2025)年3月28日

発行:皇學館大学 教育開発センター

〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704

TEL:0596-22-6331

E-Mail:kaihatsu@kogakkan-u.ac.jp

https://www.kogakkan-u.ac.jp/